

上部消化管内視鏡検査における咽頭麻酔の工夫

～フレーバー凍結麻酔剤を試みて～

医療法人友愛会 友田病院

看護師 ○高倉 智津子 医師 友田 桂

【はじめに】

現在、上部消化管内視鏡検査(以下胃カメラ)は診断治療に不可欠であるが、咽頭部不快感は不可避の反射であり咽頭麻酔が重要である。当院では塩酸リドカイン(以下ビスカス)を口に含む方法(以下従来法)で咽頭麻酔を行っているが、頸部後屈位による疲労感や口腔内不快感が強く十分な効果を得ることが困難だった。我々は奥村らの凍結麻酔剤(以下氷法)による咽頭麻酔法を試用し有効であったが依然として苦みが強いとの苦情が多かった。よって、フレーバーにて風味を付加し改善を行い、更に有用であったのでここに報告する。

【目的】

フレーバー入り凍結麻酔剤により苦味軽減の効果を調査する。また好まれるフレーバーの種類も調査する。

【対象・倫理的配慮】

胃カメラ対象者で本研究に対し同意を得られた100名(男性62名女性38名)。内容は倫理委員会に報告し承諾を得た。

【方法】

10ccの水にフレーバー1袋を入れ砂糖水30cc、ビスカス60ccを混合し7ccを1人分とし一晩凍結する。フレーバーは抹茶・パイン・コーヒーの三種類。

独自に作成したアンケート用紙を検査前に渡し無記名で記載して頂く。アンケート内容は年齢・性別の記入。凍結麻酔剤の飲み込みやすさ・味について二者択一とし、胃カメラ経験者の方のみに今回の咽頭麻酔は従来法と氷法のどちらが良いかの記入欄を設けた。

【結果】

年齢・性別：男女比は男性62人女性38人、年齢別では40・60歳代が26人とやや多かった。

飲みやすさ：三種類とも「飲み込みやすい」と全体80%を占めていた。

味：「ちょうど良い」と回答した人が抹茶25%・パイン30%と半数以下であった。

一方コーヒーは95%であった。

次回検査の咽頭麻酔方法：52名がフレーバー入り氷法が良いと回答。

【考察】

今回我々は、咽頭麻酔の苦味による不快を取り除く点に焦点を絞り検討した。長谷川らは、視覚・聴覚・触覚・臭覚・味覚が相互に影響し賞味すると述べている。パイン味は味が薄い為苦味が残り、抹茶味は濃い緑色の為視覚的に苦味を感じてしまい、より一層苦味が残ったものと推察する。一方、コーヒーは年齢層を問わず日常飲用される味の為、五感が相互的に影響し麻酔剤の苦味を軽減したものと考える。

重本らは、咽頭部の苦痛を除去することが最も重要であると述べている。今後は個別性を尊重し苦痛のない効果的な咽頭麻酔を目指すべく研究を重ね努力していきたい。

【結語】

コーヒーフレーバー入り凍結麻酔剤は苦痛の軽減に繋がる有効な咽頭麻酔剤の一つである。